

# KTK ひゅうまん 京都

No. 548 2022年7月号

編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内  
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P.1 左大文字 つどめ
- P.2 常任委員会から 池添 素
- P.3 入院の記 松本 美津男
- P.4 血の染みついたパトシ 中村 暁
- P.5 電動車いす「まんまる号」ドライバー日記 山本耕平
- P.6 ジョニーの炸裂日記 ライスチョウジョナ
- P.7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P.8 2+2=詩 富士一文
- P.9 障害のある人の権利を守る北陣連から 濱中 博
- P.10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P.11 知っ得情報 松本 美津男
- P.12 相模原殺傷事件から6年 集会案内

「呆け」や「痴呆」に代わる新しい言葉として「認知症」が世に出るきっかけ。それは、2004年秋に京都で開催された国際アルツハイマー病協会国際会議(ADI)での越智俊二さん(当時57歳)の発言だったと言われる。若年性認知症の越智さんは聴衆に訴えた▲もの忘れが始まって10年になります。病気がなったことは本当にくやしいです。(中略)これからの望みは、良い薬ができてこの病気が治ったらもう一度働きたい。どんな仕事ができるかわかりません。どんな仕事でもいい。今度は私が働いて、奥さん(妻)を楽にさせてあげたい。そして今まで苦労かけた分、お返しをしたい(認知症の人と家族の会より)

▲認知症になったらもう人は人でなくなると思われていた時代に、その当事者が自身の不安や希望、家族への思いを国際会議で切々と語った。厚労省は同年末に痴呆を認知症に変更し、「呆け老人をかかえる家族の会」も2006年に現在の名称「認知症の人と家族の会」に変えた▲以上は先頃授業で扱った一コマだが、学生からこんなコメントがあった。「私の祖父母二人も認知症。日常生活もいろいろ大変。でも私の大学合格を知らせたら二人とも泣いていた。あつ、分かっているんだ。私の一番嬉しかったことです」。祖父母の中にもある祖父母の心。心は生きている。

つどめ



「きんぎょ」  
渡辺あふる

# 常任委員会から

〈この国で起こったこと〉

投票日の2日前に事件は起こり、世論が突然の出来事にびつくりした、私もその一人。そして、マスコミは今までのことはなかったかのように持ち上げた報道に終始し、どの程度影響したかはわからないが、参議院選挙では自民党が圧勝した。それだけではなく、改憲を掲げる勢力が野党の中でも勢力を伸ばした。本格的に戦争できる国づくりが動き出す。戦後ではなく戦前になっている。この国で起こっていることの認識はどの程度市民の間で共有されているのだろうか。銃撃事件がもたらしたものは、この国のどんなSOSなのか、まだ実感が伴わない国民の意識は、改憲の動きを加速させるのかストップの意思がよ

り、きな臭い動きが加速することとは間違いない。しかし同時に物価高や年金の切り下げなど、国民生活では「苦しい！」の声

が渦巻いている。これからが正念場、戦争させない国づくりに本格的に踏み出さなくては。もうすでに戦争が廊下に立っている気配をみんなを感じよう。

## 〈投票所の変化〉

車いすユーザーのキチローさんは、選挙の投票日ごとに、投票所のバリアを指摘してきた。最初は入口と出口の段差。一人では車いすで登れない段差。なので、投票所の外から「タノモー！」と時代劇のように叫んで投票所の中の人を呼ばなくては投票所に入れなかった。何度も叫んでやっと段差が解消された。投票するには自筆で候補者名を書かなくてはいけないけれど、不随意運動のある利き手では書けない。そのたびに代筆をお願いしなくてはいけなかった。キチローさんはほかの人にできない選挙活動をここでもすることができると。静かな投票所

## 〈動き出した暮らしの場〉

で、大きな声で候補者や政党を言って代筆の方に伝える行動がそれ。今回は行くとすぐに代筆の方が近寄ってこられてサポート。そのあとは出口でもバリアがあつたのですが、今回はそれも解消されており、キチローさんにとっては、投票にかかわるバリアは解消。しかし、投票することに困難を抱えるすべての人のバリアがなくなったわけではないはず。日本障害者協議会は障害者の参政権保障について、今回の選挙で国に要望し、マスコミにも取り上げられた。大切な権利行使の機会が奪われてはいけない。キチローさんも何度も声を上げてやっと実現したバリアフリー。声を上げよう！

池添 素(京障連事務局長)

## 入院の記(一)

ポリオ後遺症による両下肢機能障害で主に両松葉杖で歩いています。昨年の12月18日、自宅玄関前階段を上がりかけた時、後ろ向きに転倒して左股関節を強打し、激痛でしばらく立ち上がることができませんでした。

なんとか痛みをこらえながら立ち上がり、とりあえず家の中に入りました。

持っている痛み止めの薬を塗って一晩寝ましたが、かなりの痛みが続くため、日曜日なので、いくつかの病院に電話し、N病院が診察してくれることになりマイカーで行きました。

左足は元々完全麻痺状態だったので、痛みをしっかりと抑える処置をもらって帰宅しようと思っていたのですが、レントゲン検査の結果、左大腿骨骨頭

骨折だから手術入院が必要と言われ、かなりのショックでした。

手術入院は小学1年の時に左股関節の拘縮を延ばすため1カ月ほど国立病院に入院して以来で、術後の傷が痛み、しばらく自由に動けなかったので二度と入院はしたくないという思いを強く持っていました。

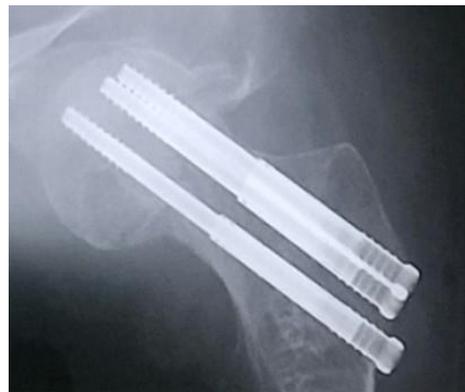
元野戦病院の国立病院は全体に暗い感じでした。院内学級があったので、勉強は続けられ、厚紙を切り抜き鉄人28号の形にして飾ったりしていました。特に印象深く記憶に残っているのは、兄が学校で僕の入院の話をしたところ、同級生が泣いて励ましの言葉を書いた小さな紙を飴と包み紙の間にに入れてプレゼントしてくれました。

さて、手術は入院して翌日でしたが、手術担当のドクターから術後一週間程度でリハビリをする病院に転院してもらうことになるという説明を受け、これもや

つかなことだなあと思いました。

やっかないことは重なるもので、マイカーをいつまでも駐車しておく訳にはいかないということ、そして、マイカーの買い換えの契約だけして納車待ちだったことです。

病院に置いていたマイカーは兄に頼んでなんとか自宅に運んでもらいました。買い換えの車はディーラーが対応してくれましたが、買い換えの目的の踏み



間違え防止装置の取り付けについては地域の知人が自動車部品店へ行って調べて助かりました。

手術に当たって全身麻酔で行うとの説明でしたが、僕は子ども時、部分麻酔でやってもらった記憶があり、部分麻酔でやってほしいとお願いしました。

全身麻酔はリスクが高いような話を聞いていたのと、手術の状況をなんとなくリアルタイムで知っておきたいとの思いがあったからです。こんなことを言う

患者はあまりいなかったようにドクターは渋々認めてくれました。けれども実際に手術が始まってしばらくしたら眠ってしまっていて目を覚ました時には手術は終わっていました。ちよつと残念。

かくして、骨をつなぐボルト3本が入り永遠の金持ちとなりました。

# 血の染みついたバトン

中村 暁（医療ジャーナリスト）

## ⑱最低限「生命を守る」こと すら出来ない国

7月6日、京都府の新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数が久しぶりに1000人を突破。直近1週間と先週1週間の比較（7日間平均）が「1」を超えるのと拡大基調なのだが、同日の数値は「1.82」。感染拡大期に入った模様である。

ちょうど参議院選挙がたたかわれており、例えば維新は「コロナを2類から5類へ」「濃厚接触者の隔離は撤廃し社会経済活動を活性化」と「重点政策」に揭げていた。同じような声は医療界からもあがっていた。東京都医師会は6月14日、新型コロナウイルスの法的位置付けを季節性インフルエンザに近いものに見直し、医療費の公費負担などは継

続する仕組みを提案していた。ここしばらく「第6波」の勢いが弱まり、ワクチンの普及や経口治療薬の開発もあって、「出口戦略」が模索されていたのである。私は、国が7月10日の参議院選挙を前後してコロナ対策

を大きく見直すのではないかと観測していた。だが思いのほか早かった感染再拡大で今後の展開は読みにくくなった。

感染症の拡大を食い止めることは大事である。だが保健衛生行政の目標は究極には、あるいは最低限、とにかく生命を守ることに尽きるのではないかと思う。したがって（毎回のよう

頻発したこと自体、保健衛生行政が最低限の目標すら達成できなかったことを意味する。高齢者だけではない。障害のある人たちがグループホームや施設に「留め置き」され、生命を落とした事例が京都でも確認されている<sup>i</sup>。この件に関して最近、障害のある人たちの団体の方から、重要な指摘をもらった。「障害のある人はコロナ以前から入院が難しかった。障害のある人たちは『付添』なしには受け入れてもらえないことがある。コロナだと付添も出来ないから、そもそも入院出来なくなる」。強い衝撃を受けた。本紙読者にとつては「何を今さら」な指摘なのかもしれない。だが私は自分の不明を大いに恥じた。

古い資料だが「障害者に対する障害を理由とする差別事例等の調査」<sup>ii</sup>には「治療・入院を制限する」差別事例として、「介助者や親と一緒になければ受け入れられないと入院を断ること」が挙げられている。この国には医療が必要な人に医療が届けられない事態が漫然とあった。にもかかわらず「いつでも・どこでも・誰でも」とか「世界に冠たる国民皆保険」とかうれしそうに誇っていたとは、恥ずかしくて仕方がない。

<sup>i</sup> 京都府保険医協会「新型コロナウイルス『第6波』における影響調査」  
<https://heal.tinet.jp/wp-content/uploads/2022/05/5c3ea42fa8b203f30d2ef7c10b9c253a.pdf>

<sup>ii</sup> 「障害者に対する障害を理由とする差別事例等の調査」（平成21年3月内閣府委託調査）  
[https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kaikaku/s\\_kaigi/b\\_9/pdf/ref2.pdf](https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kaikaku/s_kaigi/b_9/pdf/ref2.pdf)

# 電動車いす「まんまるのり」 ドライバー日記 ③

山本耕平

発がありました。

この難病と付き合い、自身のQOL向上のために、電動車いすを活用するようになった私は、難病患者、さらには、障害者として生きていくことに自分らしさを感じてきました。もちろん、この病気がなったのも、その病気故に後遺障害をもったのも、自分が好んでのことではありません。

もう少し自己紹介を続けさせよう。私は、病気の後遺障害から左の握力が8であり、自走式の車いすだと右へ右へと曲がってしまいます。それを心配した主治医から、「電動車いすを活用し、QOLを向上させましょう」とのアドバイスがあったのです。当初、このアドバイスを「え？」との思いで受けとめる自分がいました。

今後、車椅子ドライバーとして、私の目に映る、私が体験した「社会」をここで報告します。まず、次回は、67歳故に、権利として活用する障害者福祉制度ではなく、自己負担で保険を利用し「リース」という名前で車いすを活用することになったことへの怒りを報告します。

この病気にとって、ストレス

と過労が大敵なのですが、私は、

大学の時の症状が激しかったのか、その後の再発が激しかったのか、私には、眼球運動支配神経に障害があり、今、著しい複視があります。また、この病気で、よくあることですが、排尿障害が生じ、一日3回の自己導尿を行わないこととなります。

この病気にとって、ストレス

と過労が大敵なのですが、私は、大学教員になる前は、和歌山の保健所で働いていました、あのカレー事件の時に保健所職員だったのです。精神障害者の地域生活と関わる保健所にPSWですからストレスと過労はつきものです。もちろん、度重なる再



# ジョニーの炸裂日記7

ライスチヨウジヨナ（イラストレーター）

前回に引き続き未来や科学の  
お話。

先日、あるSFアニメを観た。

2061年という近未来を舞台にした作品で、身体の一部を機械化するなどの未来的な科学技術が世界に広まっているという設定が特徴だ。未来を舞台とした作品は全く珍しくないのだが、この作品は、身体の機械化が進むことでの生命への影響は？科学の力で気象をコントロールしようとする地球にどう影響が出るのか？など、細かく検証された事柄を取り扱って、なかなかリアル志向なのである。

その中でも私が特に注目した1エピソードがある。それは、生まれつき目の視えない少女が手術によって目を機械化する、というお話であった。一般の普

通のストーリーであれば、目を機械化し視えるようになり、めでたしめでたしという展開で終わるだろう。しかしこの話は、目が視えるようになったところから始まり、そこから少女の苦悩が始まるのだ。十年間視えなかつたものが急に視えるようになったが、世界は想像していたものとあまりにも違う。「色」もそれぞれ自分の思っていた色ではなかつた。自分とその先にある地点との距離感が上手く掴めず駆けそうになる。そのキャラクター曰く、「目を瞑ったほうが上手く歩ける」らしい。アニメの1エピソードではあるが、

これは実はもの凄く現実的な話なのかもしれない。先天的に長らく目の視えなかつた人が急に視えるようになった時、その人にとっての「世界の認識」はど

う変わるのかを我々は意外と考

えたことがないのではないか。こ

れは視覚障害に限ったことでは

ない。耳の聴こえない人が急に聴

こえるようになれば、もしかした

らその人にとって世界はあまり

にも騒音に溢れすぎていてただ

ただ苦痛なだけかもしれない。あ

くまでも可能性の1つであり、こ

のようなデメリットもあれば、も

ちろんメリットもあるだろう。

先日、かの有名な乙武氏が義足

を付けて歩くというプロジェクト

が発足していた。なかなか凄い

挑戦だ。また、現実ではあらゆる

病気の研究が行われていて、研究

者は日々障害や病気の治療法の

確立に力を入れている。非常に素

晴らしいことであり、大いに期待

したい。しかし同時に、その人が

その人のありのままの姿で不自

由無く暮らせる社会であること

も私は願っている。  
アニメの中では、ある科学者の  
キャラクターがこのような台詞

を述べていた。

「人類は工学や医療の進歩によ

つて、障害者のいない世界を実現

したと言われているが、障害を持

つ幾多の人たちは、長い歴史の中

でそれを個性と捉え、それぞれの

文化や世界を確立してきた。我々

のしてきたことはいわば、そうい

つた人種・民族・個性集団を差別

し、地球上から駆逐してしまうこ

とに等しい。」

この台詞は、現実で未来に起こ

り得ることを十分示唆している

と言つてもいいかもしれない。

ちなみに先程の少女がどうな

つたのかというと、最後まで視え

る世界に馴染むことができなかつたのだが、周囲の理解を得て、

もう一度視えなかつた頃の自分

に戻ることを決意し、再び心の平

穏を胸に社会へ歩んでいくとい

う、希望溢れるハッピーエンドだ

た。  
引用元：『E3 潜脳調査室』第12話

「光のない朝」

# つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

場面③ ご家族と一緒に、

グループホームを見学する

最近、3ヶ所のグループホームを見学する機会がありました。グループホームは、地域での少人数の共同生活を支援する福祉サービスです。

あらぐさには2つのグループホームがあつて、一軒家のホームで4名、4棟のホームで27名が生活しています。入居を希望される方はとても多く、募集があつたとしても1つの枠に10人以上の応募がある状態です。障害のある人たちが地域で暮らし続けるためには、グループホームも含めた社会資源が圧倒的に不足していると感じています。

グループホームと一言で言っても、規模や支援内容等それぞれの特徴があります。見学に行った3ヶ所

の運営主体はそれぞれ、社会福祉法人、一般社団法人、株式会社でした。新築木造2階建てで定員17名のホーム(シヨートステイ併設)、グループホーム用に建てられた一軒家(定員6名)、中古住宅をグループホームにリフォームしたもの(定員5名)と、建物や定員に幅があります。

定員17名のホームは1フロアことのユニット制で防犯カメラを設置、各居室の空間センサー、リビングやトイレのオゾン除菌脱臭装置等は初めて見る設備でした。ホーム入居者のご家族が面会に来られた時に利用する談話室もありました。一軒家や中古住宅の場合、居室の大きさや仕様が異なることが多いです。特に中古住宅の場合は既存の建物を活かした形になるので、居室によっては床の間や押し入れがありました。階段の勾配、居室ドアの開き方、トイレの数等によっては、入居が難しい人もいます。また、消防法で障害支援

施設にはスプリンクラー設置の義務

が定められているため、重度の方の入居人数割合が限られているホームもありました。

3ヶ所のホームは、土日祝は閉所/365日開所、夜間を含めた常時のサポート体制を確立/夜間はスタッフ不在と、運営もさまざま。家賃は居室の大きさによって異なるホームもあつて、1ヶ月30000円〜59000円でした(家賃補助除く)。グループホームの家賃・水光熱費・日用品費・食費、通所先の給食費を考えると、それだけで障害基礎年金1級の額(約81000円)を超えてしまいます。

今回、数人のご家族の見学に同行しました。見学後、どのご家族からも「どう思われますか」と連絡がありました。「忸怩たる思いで悩んでいます」「何が最良の選択なのか、毎日考えもがいています」というご家族と一緒に、ご本人のこれからについて話しているところです。

中山 恵美子(あらぐさ福祉会)

# 2+2=詩

「てるてる坊主」

窓辺にぶらぶら。てるてる坊主

お空をじつとながめてる

お空をじつと見つめてる

明日は天気になるかしら

窓辺にぶらぶら。てるてる坊主

雨がザアザア降ってます

眉をきりりとつり上げて、

空をにらんで悔しそう

窓辺にぶらぶら。てるてる坊主

空はモクモク雲だらけ

決して雨など降らせはしないと、

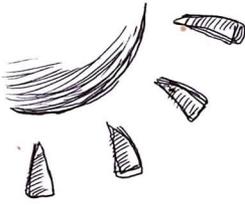
しかめっ面で念じてる

窓辺にぶらぶら。てるてる坊主

お日様ピカピカいい天気

どうやらなんとかやり遂げた

満足そうに笑ってる



窓辺にぶらぶら。てるてる坊主

風に吹かれて揺れている

疲れてぐうぐう眠ってる

明日も天気になるかしら

「不平不満」

小さな不安が、些細な不満が

どうしてこんなにしんどいのだろう。

小石のようなそれが、あちらこちらに散らばって

僕の足を引っかけて、僕の歩みを重くする。

小石のようなそれは、前触れもなくどこからともなく降り注いで

僕の頭に小さなコブをこしらえ、

僕の体を打って意気をくじく。

そして気づけば大きく積み上がり、

のしかかってきて押しつぶそうとしてくるのだ。

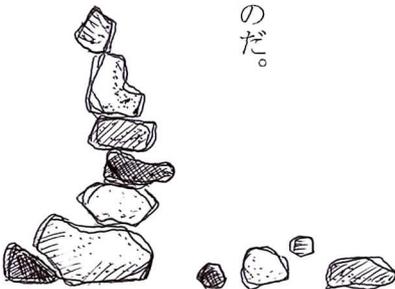
現実や人生という大岩の欠片たる、

小石たちのなんと忌々しいことか。

僕らが僕らである限り、

絶え間なく降り注ぐ忌々しい礫の雨を

避ける術はないのだから。



作・富士一文 挿絵・水口萌恵

障害のある人の  
権利を守る 北障連から

濱中博

第1号議案

2021年度事業報告

その①

「22年度こそ、総会を  
実施と！」役員は意気  
込んでいましたが、京  
丹後は第7波を先取り  
して京都市に次ぐ感染  
者となり、やむなく書  
面決議としました。

【はじめに】

2021年度も新型コロナ  
ウイルス感染防止の対応に追  
われた一年となりました。会  
員事業所の皆様も障害児者、  
家族を支える活動に懸命に取  
り組んだ事と思います。

北障連としまして、今年  
度の総会はコロナ感染防止の  
観点から、書面決議での総会  
とし、一堂に会し開催するこ  
とができず、学習会も開催す

ることができませんでした。そ  
んな中でも各会員から総会の中  
身の確認と、取り組みに対する  
意見を丁寧に聞き取り、少しで  
も今年度の取組に反映できるよ  
う進めることができました。

【成果】

1. 『要望書の取り組み』

引き続きコロナ禍で大変な状  
況下ではありましたが、丹後福  
祉圏域の丹後保健所と二市一町  
の行政に対して要望書の提出を  
することができました。市町に  
よってはコロナの状況に大きく  
左右され懇談や書面での回答を  
得ることができなかつたところ  
がありました。また、この間の  
大きな課題である伊根町への要  
望書の提出と懇談が今年度もで  
きず、引き続き伊根の里や親の  
会、福祉課担当者との連携を取  
るべく取り組みを進める必要が  
あります。

今年度も丹後保健所、京丹後  
市、宮津市、与謝野町について  
北障連担当事務局の方々が意  
識的に関係団体と連携を取り要  
望書をまとめ提出、最後まで取り  
組みを進めていただきました。  
・与謝野町では、9月に町内

の各事業所や保護者会、親の会の  
会員さんにアンケート形式で要望  
を聞き取り担当者にて素案を作  
成、10月に最終確認し11月に提出  
する事ができました。年明けの1  
月に加悦庁舎にて「子育て応援課」

2名、「福祉課」2名参加頂き懇談  
を行いました。後日文書での回答  
をお願いしていましたが、コロナ  
禍の対応や体制変更等で今年度は  
断念せざるをえませんでした。

・宮津市では、9月に関係者が  
集まりコロナ関連の要望も含め要  
望書を検討、11月上旬に市に対し  
提出し懇談についてもお願いしま  
した。しかしコロナ感染者が増え  
ている状況で懇談は難しいとの  
事。文書による回答との事でした  
が回答がない状況です。引き続き  
回答を頂けるよう働きかけていき  
ます。

・京丹後市では、メイン内にあ  
る「クリエイトショップ…くりく  
り」の移転で要望書作成の取り組  
みが遅くなり市への提出が5月と  
なりました。北障連として「くり  
くり」の移転を要望してきたので、  
御礼と合わせ要望懇談を行いた  
いと思います。

・伊根町では、残念ながら今年  
度も提出できませんでした。です  
が行政や伊根の里には懇談につ

てのお願いはしています。次年度  
は確実に小中学校特別支援学級の  
先生などに声を掛け、伊根町福祉  
課への要望書の提出と懇談を行  
いたいと思います。

・京都府に対する要望書（丹後福  
祉圏域を統括する峰山保健所）は、  
今年度も1月24日に提出と昨年同  
様非常に遅くなつてしまいました  
。早めの作成を意識しながら進  
めてきましたが、市町の要望書の  
中身を反映させるべく取り組みを  
進めるためどうしても遅れてしま  
いましたが、2月16日に代表含め  
4名と、保健所室長含め3名で懇  
談を行う事ができました。

要望の実現に向けての歩みはと  
てもゆっくりかもしれませんが、  
毎年行っている要望書の取り組み  
により、確実に各市町の北障連要  
望書に対しての受け止め方も変わ  
ってきていると思います。文書で  
出し続け懇談を重ねることで行政  
に対し現状把握と課題を明確に訴  
えることができている。課題と  
して要望に対して行政からの回答  
を分析し、次年度の要望内容に反  
映させることがより内容の充実に  
繋がっていくと思います。

# 365歩のマーチ



## 28 あたなとわたし

した。

6月後半、例年より短い梅雨が  
終わりに、おそろしくセミの音がちら  
ほらと聞こえるようになってき  
ました。朝、抱っこで保育園に向  
かう道中のこと。父「ゆいちくん、  
セミの音が聞こえるね」と話しか  
けたら、じっと耳をすましてから  
「ゆいちくんには聞こえないん  
だよ」。しばらく歩みを進めると、  
道端の木でシャンシャンと大き  
な音が聞こえてきます。

父「ゆいちくん、こわなら聞こえ  
ない。」

ゆいち「おそろしく」「じつにな  
らぬわー」。

父「あの木にゆいち」

と言いますが、じっと木を見つめ  
て「ゆいちくんには見えないんだ  
よ…」と少しがっかりした表情で

今までだったら、聞こえなかつ  
たり見えなかったら「ゆいちくん  
聞こえない!」「見えない!」と  
怒っていたと思います。しかし、  
3歳を目前に向かえたゆいちく  
んは、『おや』には『聞こえる  
けど、ゆいちくんには』聞こえ  
ない「おや」と相手が見聞きし  
ている世界を尊重しながらも自  
分を感じていることを「には」に  
込めて主張してつづけていました。

この原稿を書いているまさに  
今、39度の熱発に襲われている

ゆいちくん。日中、機嫌はいいの  
ですが、いつもより食欲もなへ、  
夕飯時には「ゆいちくん、ねむた  
くなってきた」と言って自分から  
ふとんに行きます。夜はくらり注  
意しても遊んでいたので、やはり

調子が悪い。さらに、夜中には急  
に泣き出して寝ぼけて寝言を言  
います。「じわー」「へろいおじ  
ちゃんがたってる!」「かあか、パ  
スルとたじゃーん」(なぜか標準  
語)。とつやら悪夢を見ているよう

で、「こじ、3日」「こわい」の  
後にむくくと座って何やら訴えて  
きます。さらに、むにゃむにゃつ  
びやきながら歩いて行った先が壁  
で、どん!とぶつかり「いたいー  
ー」とパニックに。小学校の修  
学旅行で、朝起きると違うグルー  
プの部屋だった、など夢遊病エピ  
ソードを何個ももっている父から  
すると、「寝ている時にうるうるす  
るのは、こじうるうるなのか」と  
妙に納得してしましました。

この時に、落ち着かせようと思  
って「大丈夫だよ」「こわかった  
ん?」など声をかけるとその泣き  
は激しくなる一方。箸が転んでも  
怒り倒す3歳目前。自分の思いを  
わかってもうたえず、「こじうるの  
」など彼にとって「余計な」言葉を

かけられると自分のなかでもど  
かしい思いが膨らんでいくよう  
です。だからと言って無言でき  
ゅっと抱きしめてもいやがる…  
どうしたものかと悩んでいまし  
たが、ある日のこと。

父「そっなんや、パスルとられ  
たん?」

ゆいち「うん」(泣)

父「なんのパスルとられたん?」

ゆいち「シヨベルカ」(泣)

父「かあかに返すように言っと  
くわ」

など、話に即してゆいちくんの  
思いを受けとめるとすーっと落  
ち着いていきました。そしてこ  
くしくとまた夢の中へ。夢で起  
こったことでも、ほくのことわ  
かってよ!という思いでいつほ  
いなのだな…と汗をかきながら  
風邪とたたかっているゆいちく  
んを見て痛感しました。

安藤 中郎(あかひつひろ) 園

# 知っ得情報

## 年金・手当で目の障害者の対象拡大

代表委員 松本 美津男

今年、年金は1月、手当は4月から目の障害認定基準が緩和され、新たに支給対象になる人や障害等級が上がって受給額が増える人がいます。

変更になった制度は、障害年金・特別障害者手当・障害児福祉手当・児童扶養手当・特別児童扶養手当です。

視覚障害者でギリギリ受給できなかった人等は問い合わせしてみてください。

ここでは代表例として障害年金の認定基準の改正内容を簡単に紹介します。

### 1 視力障害の認定基準を改正

「両眼の視力の和」から「良い方の眼の視力」による認定基準へ。

### 2 視野障害の認定基準を改正

▶ ゴールドマン型視野計に基づく認定基準に加え自動視野計に基づく基準も創設。

▶ 測定数値により障害等級を認定。

▶ ゴールドマン型視野計に基づく認定基準の整理を行い視野障害についても1級及び3級の認定基準を規定する。

### △問合せ▽

障害年金は年金事務所。手当は各自治体。



## あなたもぜひ 仲間に

サロン・サークル・地域活動展開中  
生活支援スタッフ(資格不要)募集中  
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう  
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に  
京都市北区紫野東野町1-5  
電話075-432-3636

命の平等をかけた、  
無差別平等の医療と  
福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: [info@kyoto-min-iren.org](mailto:info@kyoto-min-iren.org)

ありがとうございます

**年会費** 田尻彰・西山功・安田隆・小宮山繫・竹本利美・クリエイツかもがわ田島英二・南下建一郎・西村清忠・小林賢一・坂本正伸・山田和幸

**寄付** 井上吉郎

**分担金** 福祉保育労京都地方本部・京都市職員労働組合・京都市職員労働組合民生支部・京都民主医療機関連合会・京都府立高等学校教職員組合・保健福祉の会・京都自治労連・京都府聴覚障害者協会  
(敬称略 2022.7.10)

## 「相模原殺傷事件から6年」

何が問題か？あなたならどうする？

障害者を差別する社会は脆い。「障害者」を排斥・排除するような社会を克服して「共生」できる社会を展望する「つどい」です。ごいっしょに考えましょう。

### 基調講演

「津久井やまゆり園障害者殺傷事件の本質を問う」

藤井克徳さん（日本障害者協議会代表・きょうされん専務理事）

### シンポジウム

障害者の人権とは何か また相模原殺傷事件とは

コーディネーター 細田一憲さん（精神障害者ピアカウンセラー）

シンポジスト 平野麻衣さん（クリエイターズグリーンデン施設長）

田中里美さん（京都ふれあい工房利用者）

姜叡宙さん（アクティビスト）

知名純子さん（京都PSW協会会長）

ミニコンサート 長野たかし&森川あやこ

7月26日（火）13:00～16:00

場所：浄土真宗本願寺派 京都教区教務所 顕道会館

京都市下京区油小路通花屋町下ル

主催 相模原殺傷事件を考える実行委員会 問合せ先 090-1960-9922（細田）

